

第9回 将来は明るく見えるか

多くの日本人は将来を暗いと思っています。今日本の経済発展の遅れが主な原因で円安が続いています。これを見て多くの日本人は将来は暗いと思っています。

それを克服するには、日本から新しい技術を生み出し世界中に広く普及させることが最高の手段だと思っています。かつて、日本の産業を電気製品が支えた時期がありました。今、自動車産業がけん引役になっていますが日本経済を上向きにさせるほどの力にはなっていません。

これから日本が大きな産業を起こすとしたら、間違いなく電気自動車と太陽光発電を用いたシステムを世界中に普及させることだと思っています。

将来電気自動車はどれだけの普及があるか考えたときに、今スマホがどれだけ普及しているかが参考になります。スマホは現在世界中に80億台あります。世界人口とほぼ同じだけの台数があります。車が電気自動車になったときに何がかわるかですが、ランニングコストが圧倒的に安くなります。電力料金はガソリンの値段に比べて無視できる金額です。電池の寿命と車の寿命についていえば、今、自動車の寿命は約14年ですが、電池の寿命はこれ以上あります。電気自動車で壊れるところや交換しなくてはいけないう品はタイヤ程度です。すると、電気自動車は一旦買ってしまえば、ランニングコストはその費用を寿命の年数で割った金額とあまり変わらなくなります。税金や保険を足しても、大きな金額にはなりません。

スマホはどうでしょうか。買うときの値段は車ほどではありません。しかし、月々に支払う金額はかなり大きく、ランニングコストの方が圧倒的に高くなります。これを年間で考えると、スマホ1台を持つ費用と電気自動車を持つ費用ほとんど変わらない計算になります。

今、若者の車離れと言うことが言われています。しかし、これは日本の大都市の若者に限ったことで、世界的にはあらゆる人にとって車が欲しくて欲しくてしょうがないものです。では、ランニングコストが電気自動車とスマホではほとんど同じだとしたときに、人々はどちらが欲しいと思うのでしょうか。答えは両方欲しいです。

スマホを80億台保有している事は、電気自動車もこれだけの普及があることです。すると、年間の電気自動車の生産台数は、今の自動車の8倍ほどになります。自動車産業の規模は250兆円ほどですので、それが8倍になったとすると2000兆円ほどの規模になります。勿論、電気自動車の価格は今は高価ですが、大量生産により、これまでの車より高くなることはありません。

この大きなマーケットを日本のものにできれば日本の経済は大きく発展します。技術の面では今でも日本は世界でナンバーワンです。電気自動車に必要なリチウムイオン電池と、モーター用の強力な磁石の発明は日本で、この人たちは今でも現役です。車の生産能力は世界で最も高いレベルです。これらを考えると、日本は電気自動車にもっと大きな投資をして、日本での生産または日本で開発した電気自動車の現地での

生産を日本主導で行うことが、日本の経済を蘇らせる、そして発展させる現実的な道筋になります。

モビリティ大学ではこの分野を担う専門家として世界で活躍する人材を育てることが目的です。

次回は太陽光発電について話したいと思います。